

「右を向いても左を見ても世の中真暗やみじやござんせんか」モノ不足に悪性インフレが導火線となり、「お先真暗」な四十九年は明けた。

灯油、チリ紙、洗剤……。主婦は血まなこ「お父ちゃん」までかり出されて生活物資の確保にほん走とあいなつた。悲しきは庶民なり。

公共事業の繰り延べ、工事入札の不発、物件費の急増何をとつても好材料のない四十九年度予算編成の時期でもある。

そんななかで、市民は杉本市政を選んだ。市の内外の情勢からみて、「杉本丸」の船出は決して「波静か」とはいかない。

暗い世相ならばこそ、年の始めにじっくり社会を行政をみつめてみることも必要だろう。そして、あすの「南国市」について考えてみたいものだ。



市長 杉本恒雄

## 市長 広範な意見で市の未来像を

### 議長 市議会の状況を市民に公開

「すまんけんど対談の時間を早くしてもらえんうか」息せき切つて杉本市長が駆け込んでこられました。

今朝から石油危機に始まった一連のモノ不足、物価対策を……。と県市長会に出席、頭をかかえていたとのこと。土居議長も高知空港対策特別委員会が開かれ、委員とともに県副知事に会いに。なかなか多忙なり。

「会合、来客で便所に行く間もありません」愛称「のみ杉（飲み過ぎ）」の市長もそう述べた。

前金堂市長からの事務引継ぎを一月十七日にひかえ関連事業などを受け継いでいないとき町づくりのプランを聞くのは「酷」との声のあるなかで、恒例の市長・議長新春放談となりました。

の台所にも火の車がおしよせ、四十九年度予算編成をひかえて頭の痛いところ。

「この際、一般の人たちに集つてもらつて物価対策の組織をつくつてみせんか」と司会にうながされて、市長は「引継ぎが終りしだい、その対策を考えています。この問題は、一つには本当に物資が欠乏したところからくる問題と物価が高騰したという問題として、明日の物価がどうなるかわからんという三つの不安が重なつていまして。経済的な問題と経済不安からくる政治不信、物価がいつ上るか、下るかわからん不満です。それから個人が消費経済から節約経済へ、個人の意識の中で切り替えなければならぬ。そういう物質的な面と精神的な面からみあつていっていると思います。そういうことを考えて、現在の不安、動揺を最少限におさえることが大切です」と基本的な考え方にふれ「洗剤一つをとつても、正しい見通しをたてるように、県

## だち 発のとき

### 物価対策の組織も

話題はやはりモノ不足、物価高。市民の台所はもろろん、市

### 三割自治の悩み

「いま、議長さんがいわれたように私も財政を非常に心配しています。県下九市でも四十九年度の予算の組みようがない。というのが一致した意見です。南国市だけの問題ではないですね。戦後はじまつて以来の経済破綻でしょう。これをどう切り抜けるか、国はもちろん県も市町村も一諸になんとかしなければ。議長さんにも随分やっかひをかけると思います。全国的な経済破綻の状態を議会にも十分理解していただいて、どう切り抜けるかを一致して考えていきたいと思いますね。」と議会への協力を呼びかけました。財政的にみたと、四十七年度の決算では、市税が五億三千万円と全体の一六・一割、自主財源は八億六千七百万円で全体の二七・八割。南国市としての魅力ある町づくりをするにはあまりにも少ない財源。一般に三割自治、一割五分自治といわれるゆえんがここにありませぬ。

### 無料化は

そんななかで「明るい南国民主市政をつくる会」がだしたすぐで来る三つの無料化。杉本市長が一月四日、初登庁したとき「ゴミ袋を無料にする」といったから、もらいたい」という市民がこられたという。「明るい会」が政策を出したときにはゴミ袋は十三円（このうち市民の負担が十円）として一月からは紙不足などで三十三円に

## 市長・議長新春放談



議長 土居熊治

にも要望してきました。県とはつきりしたパイプをつけなければいけませんね。」

### 四十八年度は二億円の赤字？

議長も「市ではピーマンが促成栽培の七割を占めています。肥料をかうのが大変。また、生産過剰で売値が安い。え、重油、資材が二倍ときていますから、タダ働らきや倒産の心配もできています。」

そして、財政問題にもふれ「来年度は税収の伸びも期待できない。地方交付税も昨年並みでしょう。高知空港、海岸の黒潮ライン、十

## いま、出

市のパークタウン、香長平野を南北に走る広域農道など、いろいろ国、県の事業計画もあります。広域農道にしても総事業費十二億円。土地代は一反当り百五十万円しか国は金を出しませんから市のつぎ足しだけでも約五億円かかります。また、事業の一割は市の負担ですから全体で約六億二千万円の市費がいりますが、はたしてできるかどうか。」と不安そう。

「昨年の当初予算に元、高砂牧場（比江）の処分を一億五千万円見込んでいましたが、総合グラウンドの認可がおろして売却できなくなりましたし、四十八年度は一億四千万の赤字になるのではないだろうか。」

急上昇。今まで通り市民の負担は十円とし残りの二十三円は市が負担していますが、この価格も予算を許さず、四月からは三十六円八円くらいになるのではないかと公害環境課では頭をかかえています。

議長も「ゴミ袋の無料化で四千万円くらい。これを補助金や起債のつく他の事業に使うと二億円のつく他の事業ができます。問題の残るところですね。」そこで市長も「無料化を公約した時点で千八百万円でしたが、経済の破綻のため四十九年度では約四千七百万円



広報委員らと新春放談（市長室で）

「いかにすれば市民の期待にこたえられるか。公約の実現はすぐといっても可能、不可能があると思いますが」と司会が切り出す。出席者の中から高知市の氏原市長は競輪の廃止を公約して当選したが、いまだにやめていない。という笑い話も飛び出すなかで、会話もほく

## 表情のある町づくりへの模索

「いかにすれば市民の期待にこたえられるか。公約の実現はすぐといっても可能、不可能があると思いますが」と司会が切り出す。出席者の中から高知市の氏原市長は競輪の廃止を公約して当選したが、いまだにやめていない。という笑い話も飛び出すなかで、会話もほく

### 空港問題

市長の行政的な基本姿勢は「行政とは、木に竹をついだようなものであってはならない。市長は変っても市民は変っていない。公約の実現に取り組んでいくと同時に前市長の意向を十分聞いて、継続事業などをかたずける。手のひら政治倫理だと思えますね。手のひらを返したようにやるのは市民を失望させただけで政治の倫理ではない。従って、人事なども前市長の体制でやっています。職員もいきいきとやってくれています。」

なればそうします。ゴミ袋だけにこだわって公約実現にならないという機械的な考えではない。いずれにしろ基本姿勢としては四十九年度当初予算で無料化に取り組みようですが、市民の判断がまたれるところのようです。

### 内部行政は

#### 課長に全権限

南園市民憲章がつくられ、市民とともにきれいな町づくりに取り組んでいます。市民運動の盛り上がりについて「いま、舟入川が大変な状況になっています。三月下旬には川が干涸び、このとき河をきれいにする運動」をしてみても、と司会が提案

「舟入川は歴史的にも由緒のある川、兩岸に桜の木を植えたりして、きれいな川にしたいものです。広報がきれいにするキャンペーン運動をやってほしい。」と注文「市民運動を高めるといふような運動をやっていかないと、よごす人はよごす、きれいにする人はきれいにするでは……。」これは市長がお願いしてやってもらうのではなく民間からやろうという市民運動として起ってこない。市長が金を出さず。そういうことももちろん大切ですが、そこで出席者から「青年団や婦人会が中心になって、市長さんもその日は一日おいでしてもらおう。青年団などがかりを集め、市がトラック輸送なんか引き受ける。という形で盛りあげていくことが必要ですね。」行政が上意下達的に町づくりをすすめるのではなく、主人公であ

る市民とともに「考えながら歩く町づくり」としての市民参加、市民運動が望まれるのではないのでしょうか。

課長にまかすことを課長会で宣言しました。好感をもってくれたようです。議会でも市長は市を方向づける基本的な問題、行政方針については明確に答弁します。しかし、内部行政については課長に答弁してもらってから、そのハラでしっかり勉強してくれといっています。

その構想について市長は「助役を早く決めて、市役所の内部的な事務は助役にまかせ、議長さんと協力して、県の対策に全力をあげたい。そして一人の補佐には助役の補助、もう一人には外交面を担当してもらおう。」

しかし、三月市議会の一一般質問を待ちかねている議員もあるといわれ「課長に聞いていない、市長に答弁さす」というウワサもあるとか。

そして課長、係長制度を生かしていくと活動できるような場をつくってやれませんか。」との質問に「各課のことは全権限を

「この間、ある青年が議会の議事録をもらいたいとやってきました。議会には公開の原則がありますが、

### 一千年の伝統をどう生かすか

すから各農協単位ぐらいに配付してはと考えています。みんなに配るには財政的なこともありませうので、広報紙へもつと市政のことを公開してもらってほしい」と議長からも注文

最後に「表情のある町づくり」南園市でなくてはできない特徴のある町づくりのプラン、十年後の南園市の未来像について、市長は「市は高知県唯一の一千年の歴史をもつ市です。その一千年の伝統をどう受けつぎ、文化遺産をどう



親子のふりかぜ

ご家庭で話し合ってください。答えは今月号の広報に。●もんだい

①一月〇日はご用始めの日とともに杉本市政スタートの日。  
②ゴミ袋は十三円でしたが、ことし一月から紙不足などで三十三円になりました。市民の負担は今まで通り〇円です。  
③「わが家の家計簿」体験談の原稿しめきりは二月〇〇〇日です。

受けつぐかが一つ。そして、後免町を中心とした都市づくり。三つ目には田園都市の特色をどう生かすか。この三つをどうかみ合わせるのが未来像の課題だと思えますね。」

の未来像をつくりあげたいと思っています。最後に司会が「課長という鶴にどうやってうまく魚をとらすが市長の腕、課長教育でもあり、市長学習でもあるわけですね。また、議会運営にしても良い事はよい、悪いことはわるい、と筋を通しませんと。やはり市民のためになることはしなければならぬ、市長にも議会にも市民がひかえていますから。」

「全課長のそれぞれの意見、感想をだしてもらい、そのイメージに従って市のあり方を探りたい。市長のハラだけでは未来像はできませんから、科学者の専門的な意見や議会、職員などの意見も聞いてプランをたて、市民集会などで広範な市民の意見をとり入れて市

- しめきり：二月十五日（金）
- おくり先：〒七八三南園市大坪、南園市役所内広報委員会、親子クイズ係
- 答えはハガキには必ずお歳、年齢を書いてください。
- しょうひん・特賞：千円一人
- 残賞（記念品）：十人
- 特賞に細木慶子（大坪）さんら十人に
- 第二十八回の正解発表
- こたえ：十一月〇日、◎木恒星 三千六十票、でした。
- 特賞：千円、細木慶子（大坪） 島崎秀典（大坪）田中慎子（物部）

- 山崎孝浩（東崎）戸根ゆきひろ（稲生）今西多志（大坪）小笠原隆之（物部）徳橋美香（久礼田）村上静（岡田）門田理恵（久礼田）
- 残賞：北岡幸男（物部）松本俊吾（立田）徳橋直人（久礼田）溝渕ゆき子（浜改田）中田浩（後免）三谷春実（久礼田）池添都江（田村）岡田節子（立田）大石博之（大坪）上岡由香里（植野）高橋伸輔（植野）坂野けい（片山）西田憲正（大坪）村田亀美代（十市）村田明子（植野）高橋佐知（植野）岡沢信仁（立田）岡田知恵（後免）坂野正明（片山）田村みき子（岡田）

## 二 挨拶

昭和四十一年一月就任して満八年間、南園市政に私の全エネルギーを打込んで、ひたすら邁進してまいりました。その長い道は苦難ではあったが足跡も残り、また自分の執念でもあったので、一面楽しい思い出もなり、くいはありません。更に棒頭一步の躍進を夢みて昨年十二月冬の陣を戦いましたが、「国

盗り物語」に敗れ、南園城を開け渡し、激しく音をたてて流れる時勢を見つめながら老兵は去ってゆきます。新しい市政の恵みのもと四万三千人の市民が更に一層の幸福と福祉を受け、誇りある市民となられますよう市政発展を念願し、長年にわたる市民皆様のご協力に感謝をささげ市長退任の挨拶とします。有難うございました。

前市長 金堂久喜